

2019年9月5日
日興アセットマネジメント株式会社



エンジェルジャパン・アセットマネジメント*
運用チーム

日興グローイング・ベンチャーファンド

エンジェルジャパン宇佐美博高から 皆様へのメッセージ

右から 宇佐美代表取締役、内藤チーフインベストメントマネジャー、
金沢シニアインベストメントマネジャー、柳葉シニアインベストメントマネジャー、永嶋インベストメントマネジャー

*当ファンドの投資助言を行なう投資顧問会社です。

「エンジェルジャパン・アセットマネジメント」の投資哲学

- 経営者に対する『個別直接面談調査』を徹底することで、革新成長企業を厳選します。
- 新興成長企業は判断が難しいため、アナリスト経験豊かなチーム全員と一緒に面談し、投資判断も完全な合議制にて運営しています。
- IPO(株式の新規公開)のロードショー**でほとんど全ての企業と面談し、革新的な企業とはその後も定期的に面談します。
- 組入企業を順次入れ替え、常に「今が旬」の「成長割安50社パッケージ」を維持することをめざします。

**IPO前に行なわれる機関投資家向けの会社説明会

※上記「50社パッケージ」とは、50社程度という意味で使用しており、投資銘柄数を50社に限定するものではありません。

～丹念な調査で競争力を見極める～

近年、新興企業を中心に多くの企業が“サブスクリプション（以下、サブスク）”型の課金体系を採用するようになってきました。そのため、ビジネスパーソンの間では当たり前のようにサブスクという言葉が飛び交っています。もともとは雑誌の予約購読・定期購読を意味していましたが、そこから転じて、現在では定額課金の事業モデル全般を指すようになりました。定番となっている音楽や動画の定額配信サービスのほか、最近では自動車、家具、家電、衣料、日用品、食料品、ワークスペースなど、あらゆる分野で定額制のサービスが登場しており、まさに百花繚乱の様相となっています。メディアに取り上げられるのは消費者向けサービスが多いため、“BtoC（消費者向け）”の事業モデルとして語られることが多いのですが、“BtoB（企業向け）”においても、同じようにサブスクの存在感は高まっています。

特に顕著なのは業務用システム分野です。従来、業務用のシステムを利用する企業は、高額なソフトウェアを買い切りで購入する必要がありましたが、十数年前からインターネット経由で機能を提供する“SaaS（サーズ）”と呼ばれる利用形態が登場し、急速に市場へ浸透してきました。こうした流れはさらに加速しており、OS（基本ソフトウェア）やアプリケーションなどのソフトウェア、サーバーなどのハードウェア、ネットワークの機能までインターネット経由で提供する“PaaS（パース）”や“IaaS（イアース）”といった利用形態も主流になってきています。いずれの形態においても、利用企業にとっては初期投資負担が極めて軽くなり、安価な月額料金を支払うだけで常に最新版を利用できる、という利点があります。一方、事業者側にとっても定額課金は売上が積み上がりやすく、先々の業績が読みやすいという利点があります。双方にとって利点が多い仕組みとして、サブスクは浸透してきたといえるでしょう。

サブスクの場合、提供する事業者の売上高は「利用者数×平均単価」でシンプルに計算できます。例えば、インターネットサービスであれば変動費はほとんど発生しないため、人件費や広告費など固定費に大きな変化がない限り、将来の利益が読みやすいというのは間違いのないでしょう。しかし、それはあくまで利用者を囲い込んでいることが大前提です。サブスクで重視される解約率が上昇した場合、利用者数も単価も当初想定から修正を余儀なくされるため、成長シナリオは大きく崩れてしまいます。したがって重要なのは、どのように顧客を獲得し、囲い込んでいるかという点であり、価格、利便性、独自性、技術力、競合状況など、様々な観点から競争力を見極める必要があると思います。

これはサブスクに限った話ではありません。成功した製品・サービスや事業モデルに他社が追随してくるのは世の常です。玉石混交となった市場の中で競争力の高い企業を見極めていくには、やはり一つ一つのサービス、一社一社の企業を丹念に調査・分析していくことが欠かせません。日興グローイング・ベンチャーファンドでは、経営者に対する個別面談調査を中心に、今後も積極的な調査活動を行なうことで、魅力的な企業を一社でも多く発掘していきたいと考えています。

エンジェルジャパン・アセットマネジメント 宇佐美 博高

1976年一橋大学卒。静岡銀行、すみや電器を経て野村総合研究所入社。ディービー・モルガン・グレンフェル・アセットマネジメント(現ドイチェ・アセット・マネジメント)等株式運用責任者を歴任後、2002年エンジェルジャパン・アセットマネジメントを設立



ファンドの特色

1 高成長新興企業の株式に投資を行ない、信託財産の成長をめざします。

○主として、公開後5年以内のわが国の金融商品取引所上場株式の中から、革新的な高成長新興企業(=グローイング・ベンチャー)に投資を行ないます。

2 エンジェルジャパン・アセットマネジメントによる徹底したボトムアップ・リサーチにより有望企業を厳選します。

3 エンジェルジャパン・アセットマネジメントから投資助言を受けます。

お申込みに際しての留意事項

■ リスク情報

投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【未上場株式などの組入リスク】

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■ その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様へ「日興グローイング・ベンチャーファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

■当資料は、投資者の皆様へ「日興グローイング・ベンチャーファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

お 申 込 み メ モ

商品分類	追加型投信／国内／株式
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額
信託期間	2023年7月18日まで(2003年7月18日設定)
決算日	毎年7月17日(休業日の場合は翌営業日)
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

手 数 料 等 の 概 要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時の基準価額に対し <u>3.24%*(税抜3%)以内</u> *消費税率が10%になった場合は、 <u>3.3%</u> となります。 ※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
換金手数料	ありません。
信託財産 留保額	換金時の基準価額に対し <u>0.5%</u>

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対し年率 <u>2.052%*(税抜1.9%)</u> *消費税率が10%になった場合は、 <u>2.09%</u> となります。
その他の費用・ 手数料	監査費用、組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などが その都度、信託財産から支払われます。 ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することは できません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに
応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
投資顧問会社	エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社
受託会社	野村信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ]www.nikkoam.com/ [コールセンター]0120-25-1404(午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
エース証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第6号	○		
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○
岡三オンライン証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第52号	○	○	○
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○		○
内藤証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第24号	○		○
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第131号	○		○
碧海信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第66号	○		
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○
水戸証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第181号	○	○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○

(50音順、当資料作成日現在)